

花壇並に花壇用草花年中行事

—(十二月)—

日比谷公園花壇掛 富 本 光 郎

花壇の跡片付

美しかつた秋の花壇も今月に入ると總て見る蔭もなく傷んでしまふので夫々跡整理をしなければならぬ。即ち宿根草は根元から莖を切り去るだけで花壇に其儘とし、一年草及び耐冬の宿根草例へばアルターナンセラ、鶏頸、葉鶏頸、トレニア、マリーゴールド、サルビヤ、千日紅、百日草、コスモス、ヘリアンサス、アゼラタム、カ、リヤ、天人菊等は、すつかり抜き取りその跡をよく耕地整地し、冬中淋しくとも亂雑さや汚さを感じない様、よく整頓しておく。又其跡地へ生石灰、硫黄華の如きものを鋤き込んでおけば土壤の改良消毒等に効果あるものであるから土質により毎年何も植つていない此時期に施しておく事が大切であ

る。

春植球根類の掘上げ貯藏

初夏の頃からすつと我々の眼を樂しませてくれた、ダリア、カンナ等の球根類は十一月下旬頃より降霜の烈しくなるに連れ全體に枯色が見られる様になるから掘り上げて來年のために貯藏しておかなければならぬ。

方法としては先づ球根に二、三寸の莖をつけて球をいためぬ様掘り上げ附着している土をよく落し一株々各自にはつきりと名稱を書いた札をつけ二、三日小屋の中などに陰干にしておき、別に南向の暖かい排水のよい場所に深さ二尺位の穴を掘つて、その中に球根を並べ上から土をかけたおおくのである。尙冬中この穴の中に水などの溜らない様

穴の上は土を一尺許り高く盛り鉢力板の様なものを覆ひかけておくと最も安全である。

暖かい地方ではこれほど丁寧にしなくても只株の上に藁藁の様なものを敷き、土を五、六寸かけておく程度で十分であるが東京附近では前記の様にしておかないと寒い年などは可成危険である。

ジンジャもダリア、カンナと同様の方法によるので有がグラデオラスは蔭干とした後よく調製して箱又は袋の様なものに入れ鼠害などの憂なき乾燥した場所に貯藏しておく。

其他アマリ、ス、アガパンサス、クリナム、モントブレチヤ、リチャーディア、さふらんもどき、玉すだれ等は莖を切り去り花壇にてその儘上から二、三寸土をかけておくだけで十分越冬するものである。

冬花壇の設置

十二月から三月迄の四ヶ月間花壇に何も無いといふ事は實に殺風景な淋しいものであるから、費用の許す範圍内に於て狭くとも一ヶ所位冬花壇を設け度いものである。冬花

壇の材料としては、

葉牡丹 赤紫色
及白色 一本六、七錢位 名古屋地方の縮福
葉種最も美麗なり

寒菊 赤色及
黄色 一鉢十五錢位

南天 (實生苗)紅色(觀葉) 百本束六十錢

等數種に過ぎないので、又之等のものを栽培しておく
と云ふ事は可成困難な事であるから、總て栽培者より購入
しなければならぬ。

従つて之等のものばかりで造るといふ事は中々大變な事
であるから榎木、阜月、伊吹、黄楊、草黄楊等の灌木類を
刈込んだもの或は龍の髯をよく調製して縁取り等に用い、
内部には花の代りに花崗石粒(白色) 寒水石粒(白色) 鑄
花崗石粒(黄褐色) 蛇紋石粒(淡綠色) 赤間石粒(赤褐色)
那智砂利(黑色)等の色砂を花の色と調和よく敷きつめて
用ふると花とは又異つた美觀を呈するものである。

大體之等のものを用いて冬花壇を造れば寒菊だけは一月
中旬頃には花を終るが他の物は極めて長く眺める事が出來
るもので又二月頃早咲パンジーなどを補植すれば、三月末
春の花壇の植付迄相當の美しさを保つてくれる者である。